

令和8年度 学校自己評価システムシート （さいたま市立常盤小学校）

学校番号 002

【様式】

目指す学校像

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子を育成する学校
～子どもが「思い描く幸せ（Well-being）」の実現をめざす学校～

重点目標

1 児童が学ぶ楽しさを実感し、「本気で学ぶ」授業の創造

2 たくましい体を育み、健康や安全に気を付けて生活できる教育環境の創出

3 学校、家庭、地域の連携・協働体制による社会に開かれた教育課程の実現

4 安心・安全な学校のベースとなる環境の整備

5 働きやすい職場環境のもと、教職員の職務やキャリア段階に応じた資質能力（指導力）の向上

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○学習スタイルが児童に浸透してきており、児童の自己肯定感を育てることにつながっている。 (課題) ○授業で学んだことを、生活の中の事象に関連付け、さらなる追究や探究的な学びにつなげていく指導の工夫が必要である。	・「学びを追究する」児童の育成	1 「自分発→みんな経由→自分行き」をベースに、誰もが活躍できる学習活動（誰でも祭り）を通して自分の考えを深めていく授業を展開する。 2 特別活動や道徳の実践力の向上を図り、授業のベースとなる安心・安全な学習環境づくりや、豊かな人間関係づくりを行う。	1 学校評価アンケート「学校は、考える力や表現力を高めるような授業の実施に努めているか」の肯定的な回答90%以上 2 特別活動や道徳を学校課題として位置付け、講師を招いた研究授業等の研修を実施しすることができたか。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。 (課題) ○様々な背景を抱えている児童がいることから、学校、家庭、地域が連携をして、児童をサポートしていく環境づくりに取り組んでいく必要がある。 ○昨今の気象状況、生徒数と校庭の広さの関係等により、学校で子どもがのびのびと体を動かす機会が減少している。	・教育相談、生徒指導等に係る組織的な対応の充実 ・健康・体力向上の取組の充実	1 生徒指導、教育相談委員会や情報交換会を定期的に開催し、情報端末を活用して指導の蓄積や分析を行う。 2 生徒指導等の問題に、迅速、誠実、アフターケアを旨として対応する。教職員研修を実施する。 3 生徒指導や教育相談に関する教職員研修会を実施する。	1 定期的に校内生徒指導委員会や情報交換会、教育相談日を開催したか。その際、情報端末を活用したか。 2 学校評価アンケートにおいて、生徒指導・教育相談等に係る設問で肯定的な回答90%以上 3 生徒指導・教育相談に関する校内研修を3回以上実施したか。				
3	(現状) ○常盤中、常盤北小との3校合同の学校運営協議会を開催し、中学校区で目指す子ども像の共有を図り、合同で「コミュニケーション力向上の取組」を実施している。 ○開校95周年を契機に、地域との連携を一層深め、地域へ出かけての学習や、外部の指導者を招聘しての学習が進んだ。 (課題) ○昨年度立ち上げた新しい形の「チャレンジスクール」を充実・発展させていく必要がある。 ○教育の質の向上のため、地域や外部の指導者による特別授業等を一層充実させ、カリキュラムに位置付けていく必要がある。	・「常盤エリア」を意識した学校運営協議会の開催 ・地域と一層連携し、地域の特色を生かした教育活動の実施	1 3校合同での情報・行動連携のための学校運営協議会を開催し、9年間を見通して熟議を行う。 2 コミュニティ・スクールはもとより、育成会や自治会、PTAとの連携を図り、チャレンジスクールへの理解と協力を得る。	1 3校が連携した学校運営協議会を2回以上開催したか。委員から出た意見を熟議の議題に取り入れたか。 2 地域の資源を活かし、チャレンジスクールの内容を質的・量的に向上させることができたか。				
4	(現状) ○「黙々清掃」などの日常活動や、地域や保護者と協力した清掃活動等により、本校の環境整備は、市内外の訪問者等からも評価されている。 (課題) ○施設の老朽化に伴う修繕箇所の増加。樹木の生長により落葉が近隣の迷惑になっている。	・保護者や地域の協力のもと校内整備の一層の充実	1 「黙々清掃」や職員による備品整備、地域と連携した清掃活動を引き続き実施する。 2 施設の修繕、樹木の剪定等、学校配当予算では対応できないものについては、教育委員会と連携を図っていく。	1 日常の児童の清掃への取り組み状況を把握し、「黙々清掃」を各学期1回以上実施したか。また、年に2回以上地域と連携した環境整備を実施したか。 2 「学校は、環境を整え、安全であるか」の肯定的な回答90%以上				
5	(現状) ○「コミュニケーション能力」や「自己肯定感」など、子どもに身に付けさせたい力を明確にし、「本気の学び」に向かう児童の育成に向けた研究・研修に取り組むことができた。 ○ICT ツールの活用により、日常的に、よい授業の方法や授業の資料などの情報を共有することができた。 (課題) ○日々の授業の中で、どの教員も、どの教科等でも研修の成果を生かした授業展開（本気の学び）ができるようにしていく必要がある。 ○本市の学校における「働き方改革マスタープラン」の取組を推進していく必要がある。	・教職員のボトムアップによる学校課題研究・校内研修の充実	1 研究主任を核とし、教職員のボトムアップによる研究を推進する。指導者として大学教授等の学識経験者を招く。 2 一人1研究、一人1回研究授業・公開授業を実施する。また、教職員の得意な分野の業務内容や、指導方法等について学び合う「校内パワーアップ講座」など、教職員による自主的な研修会を行う。 3 会議の精選、ノー残業デー、休暇取得の促進等のはもとより、風通しのよい職場環境づくりを一層推進する。	1 指導者を招いての研究授業や講話等の学校研究を6回以上実施できたか。 2 教職員の主体的な学びとして、一人1研究に取り組んだか。 3 教職員が行う「ストレスチェック」の数値が、全国平均よりも良好であったか。 4 方策1～4の結果として、学校アンケートにおいて、学校への満足度に係る設問での肯定的な回答90%以上				